

第2回新塩尻市立平出博物館基本計画策定委員会議事概要

- (1) 日時：令和4年1月24日（月）午後2時～5時
- (2) 場所：塩尻総合文化センター2階大会議室+リモート会議
- (3) 出席者 委員 10名出席（うち2名はリモート）2名欠席、生涯学習部長、事務局
- (4) 議事内容

①第1回策定委員会の議事概要について

②基本計画の内容について

基本計画案を事務局より説明

- ア 第1回策定委員会資料からの変更について
- イ 理念・コンセプトの整理について
- ウ 収集・保管計画について
- エ 調査・研究計画について
- オ 展示計画について
- カ 教育普及計画について
- キ 交流・広報計画について

③今後のスケジュールについて

基本計画策定までのスケジュールを事務局より説明

【議題・主な意見等】

②基本計画の内容について

ア 第1回委員会資料からの変更について

・議事内容で承認とする。

イ 理念・コンセプトの整理について

<まとめ>

・新平出博物館のコンセプトは引き続き検討を行う。

<委員の主な意見>

○平出遺跡の扱い

- ・これまでの遺跡の経緯や遺跡が5000年続いているということを考慮すると、やはり平出遺跡を中心に扱った方がよい。また「5000年」という言葉も大切に扱った方がよい。
- ・今回の博物館は平出遺跡に隣接する。まずは平出遺跡をメインとし、それだけは塩尻全体の歴史を理解できないので、付随的に塩尻の歴史や民俗をテーマにすればよいかと考える。
- ・テーマは明快に持っておいた方がよい。資金、人員も限られている以上、テーマは絞り込むべきで、その最大のテーマが平出遺跡であることは間違いない。
- ・「5000年」の表現は平出遺跡に住んだ人たちが現在に至るまで全部繋がっている歴史が存在す

ると認識されないだろうかという心配がある。また、5000年という時間距離も大きすぎて、未来をイメージしづらい。

- ・縄文から塩尻にいる人が入れ替わったとしても、人が出会って塩尻の地で歴史を作ってきたということは大切だと思う。「5000年の時をこえ 出会いがつくる歴史と文化」は分かりやすくてよい。

○交流

- ・塩尻は、物流を含めた到達点であり、交流、交差、結節点であることがポイントである。
- ・塩尻の宿場や奈良井宿などの「人と宿場」も代表的な交流の一つである。
- ・ワインも時代の中の交流で生まれ、次の時代に作られていくものだと考えられる。

○未来を見据えて

- ・平出遺跡の歴史の深さを未来へつなげるという意味合いでの時間軸の幅が示せるとよい。
- ・平出遺跡は常設展示などで大事に扱い、未来を見据えて、宿場、街道、ワインといった、その他の塩尻らしさも踏まえたものにするのがよいのではないか。
- ・博物館づくりは時間の交流—過去と未来との接点を博物館として作っていかうということである。

○その他

- ・平出遺跡から穂高が見える景観的要素も「塩尻らしさ」の一つと考える。
- ・新平出博物館と国指定史跡平出遺跡を含むエリア全体を、塩尻歴史文化創造空間「(例)平出古代ロマンの里」として位置づけ、コンセプト展示や道・交流展示等の新しい要素と主たる要素の平出遺跡・平出博物館の考古的要素を分離させて新しい博物館を位置づけてはどうか。

○市民参加・地域づくり

- ・博物館が地域づくりに関わっていく際に、市民をいかに巻き込んでいくかということが重要。「平出シソonz」という言葉を使用するのであれば、キャッチフレーズも子孫や未来のイメージに結びついていくようなものがよい。
- ・新しい博物館が地域のプラットフォームを目指すという意味で、人づくりや地域づくりなど人間が関わってくる部分がある。例えば「人にやさしい、地域にやさしい、人類にやさしい」といった発信をし、ハード面としてバリアフリーやユニバーサル空間で「万人にやさしい」といったキーワードを発信していくとよい。

○キャッチコピーについて

- ・出会いによって新しく塩尻の歴史や文化を子どもたちが学んでゆく場にしていくことが大切なので「出会いがつくる歴史と文化」というキャッチコピーはよい。

ウ 収集・保管計画について／エ 調査・研究計画について

<まとめ>

- ・内容は大きく変更は加えず、より具体的な記載を盛り込む。

<委員の主な意見>

- ・収集できる資料は限りがある。収集する資料の目的と方向性を明確にし、間口を絞った収集計画

が必要である。

- ・収集対象は、市内の資料だけではなく市内に関連する資料も含むべきである。
- ・市内の古文書室や市内文化施設との連携と役割分担なども検討しなければならない。
- ・人員体制について具体的に記載した方がよい。
- ・すべてを学芸員が行うことはできないので、研究者とのつながりも研究計画に記載する。
- ・資料収集区分、総量的にどうなるのか、専門性を持った人員が取り扱うのかという点について、基本計画にどこまでは書き込むべきか合意していく必要がある。
- ・何を文化財としたいか、何を大事にしていくかということをも市民と共有意識を持っていかなければ、文化財の流失につながってしまう。

オ 展示計画について

<まとめ>

- ・一筆書きよりも各室独立の案がよいとの意見が多数あり、内容については理念・コンセプトを生かし、限られた空間と予算で何を展示するのかを引き続き検討することとする。

<主なご意見>

○展示計画について

- ・限られた空間と予算で何を展示するのか、コンセプトが展示に生かされる必要がある。
- ・常設展示で作りこみすぎず、企画展で新しいことを行い、常設展示に反映していく方がよい。
- ・新しい情報を反映させたり、市民が参加したりできる余地を残したほうが、市民とつながっていけるのではないか。
- ・展示を補完する上で、デジタル機器も活用しながら展示をつくっていくと記載するのがよい。
- ・デジタルの展示は、一度作成すると機器が更新できないなど問題があるので、その点も考慮しなくてはならない。

○展示テーマや内容について

- ・未来を考えることについては、産業がどうなっていくのが塩尻らしいのかということを考える機会を設けることができるのではないか。

○展示構成について

- ・一筆書きの動線は、常設展示ですべてを説明させようというところに問題がある。
- ・一筆書きの案はわかりやすく、コンセプトを伝えやすい。
- ・現実的に平出遺跡に関連する資料や歴史的な検証などに多くの空間が必要。その場合、コンセプト展示をハブとし各室に独立させる案がよい。
- ・比較的流動的に内容を変更していけるという意味で、各室独立がよい。

カ 教育普及計画について / キ 交流・広報計画について

<まとめ>

- ・体制や経費等と合わせ、できることだけを記載する。
- ・市内他部署や市民との連携による事業推進を検討する。

<委員の主な意見>

- ・博物館だけで実施するのではなく、公民館や図書館、観光部署等他部署と連携を考えるべきである。
- ・自然と人が集まる仕組みがあるとよい。
- ・塩尻ロマン大学、中学生を対象した講座、えんぱーくのようなイベントなどがあるとよい。高校生のボランティア組織も巻き込めるとよいと考えている。
- ・「シソonz」という言葉を使って、人のつながりをつくる必要がある。新しい博物館を構築する段階できちんとした組織をつくっていくべきである。